

戦略
1

明日へつなぐ

意欲的な若者をはじめとする多様な人材が活躍し、本県農業を力強く支え、明日へつなげる農業を展開します。

KPI(重要業績評価指標)	現状値	目標値(2025年)
産地が育成する就農者数※1	3人	150人
人・農地プランの中心経営体に位置付けられる新たなモデル経営体数※2	—	45 経営体
女性による新事業創出数	一件	15 件
農福連携の取組数※3	165 件	200 件

※1:産地が設置する研修機関等での研修修了後に就農した農業者数

※2:合併や連携する集落営農組織、農業に参入する企業及び自治体等が出資した広域農業法人等

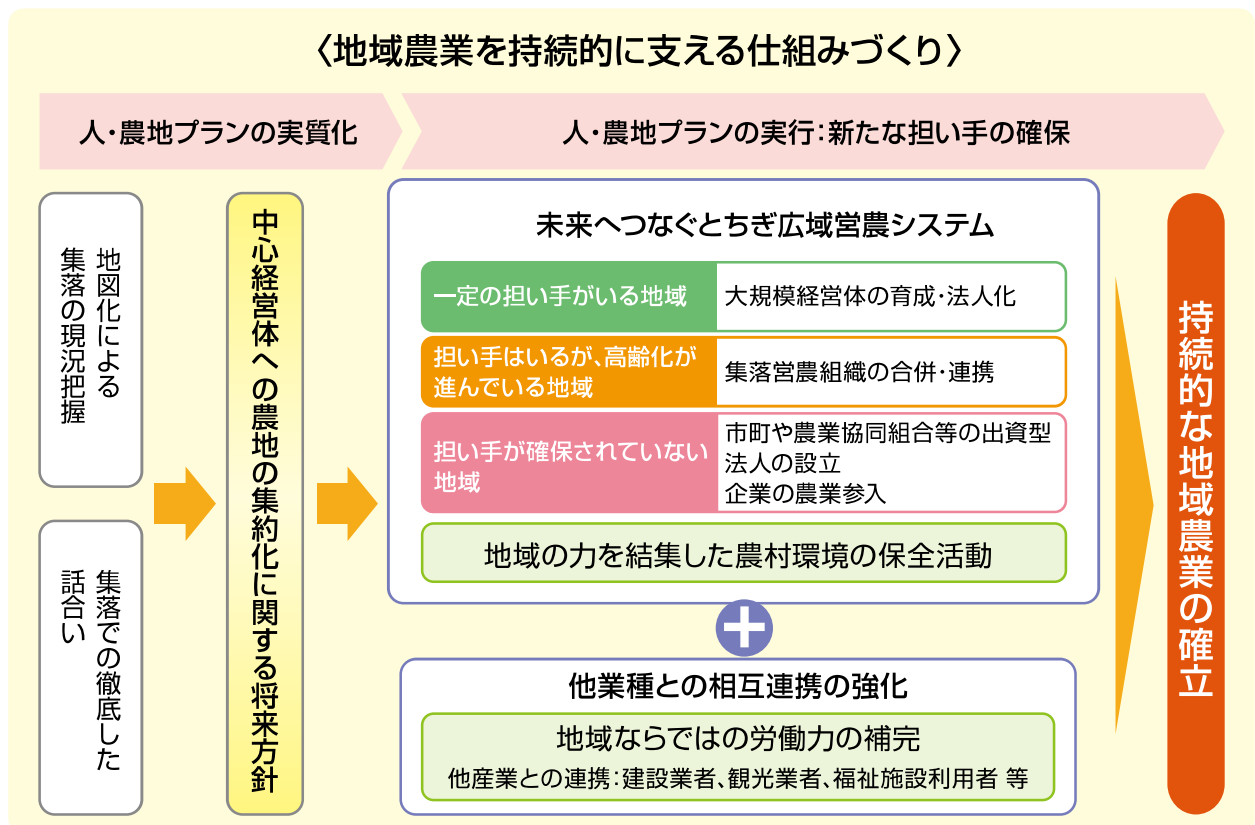
※3:[福祉施設等への農作業委託]、[障害者雇用]及び[自ら障害者就労支援施設等を設立]の取組ごとの農業経営体数並びに農業生産を行う障害者就労支援事業所数の合計

(1) 地域農業を持続的に支える仕組みづくり

【展開方向】

高齢化などにより農家が減少する中、地域農業を持続的に支えていくため、担い手への一層の農地集積や、広域的に営農を展開する法人等の新たな担い手の育成を進めるとともに、地域住民をはじめ地域の力を結集した農業の仕組みづくりを進めます。

〈地域農業を持続的に支える仕組みづくり〉



【主な取組内容】

① 未来へつなぐ「とちぎ広域営農システム」の構築

- ◆ 複数の集落を範囲とする広域的なモデル地区に対する重点支援による担い手への農地の集積・集約化の一層の促進
- ◆ 地域農業の中核を担う大規模法人の育成と経営の高度化による体質強化
- ◆ 担い手間の連携強化や集落営農組織の合併・連携による広域的な営農の展開
- ◆ 企業の農業参入や市町・農業協同組合等が関与する広域農業法人など新たな担い手の育成
- ◆ 農地や水路の維持管理など地域住民等の参画による地域の力を結集した農村環境保全活動の促進

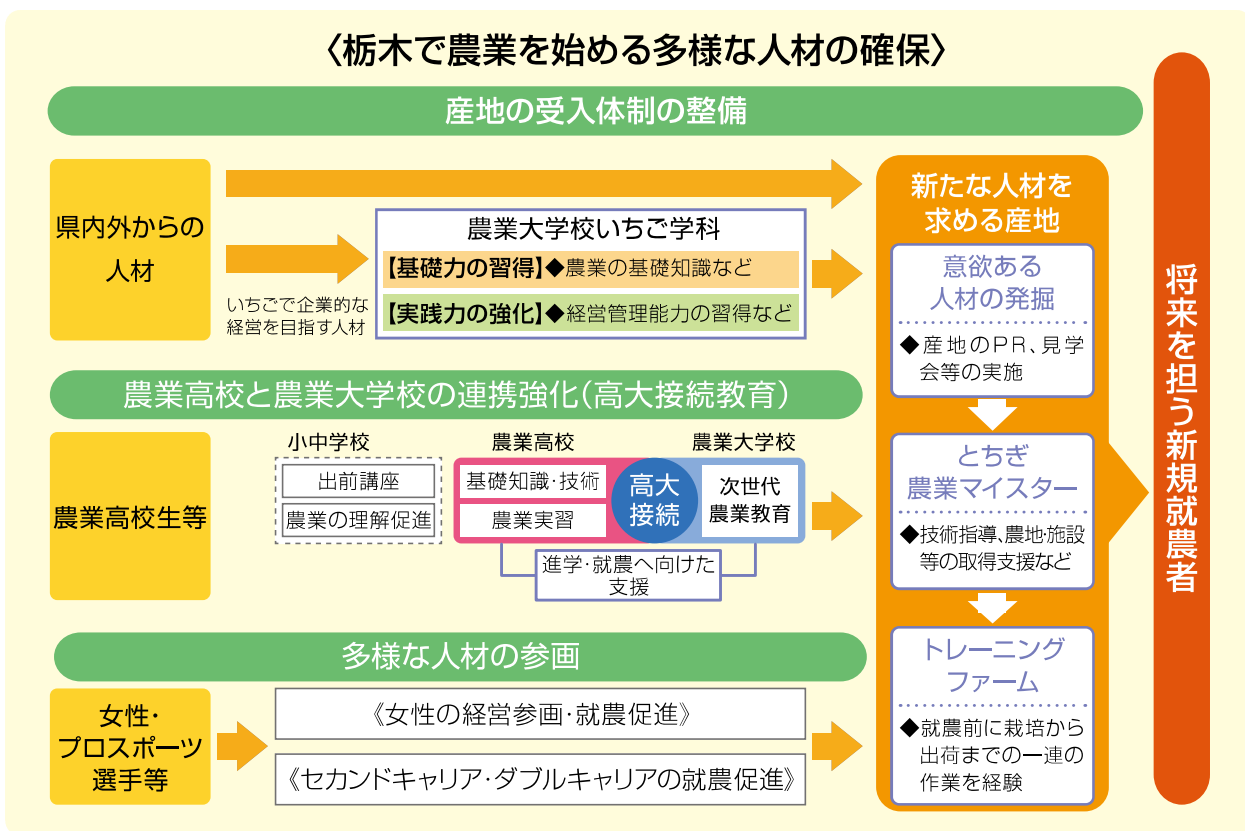
② 他業種との相互連携の強化

- ◆ 農福連携をはじめ、他産業との協働の促進により相互利益を創出できる農業の展開
- ◆ 農業経営体間の連携や他産業事業者との連携による相互に労働力を補完する仕組みづくり

(2) 意欲ある人材の参入促進

【展開方向】

産地が主体となって新規参入者を受け入れる新たな体制づくりを進めるとともに、農業を学ぶ機会の充実を図り、栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めます。



【主な取組内容】

①次代を担う農業人材を育成する体制の整備

- ◆ 就農希望者に対する「とちぎ農業マイスター」による実践的な技術指導や、農地・施設等の取得に関するきめ細かな支援などを行う産地の受入体制の整備
- ◆ 農業大学校「いちご学科」をはじめとする実践教育の充実による優れた技術と高い経営能力を持つ農業者の育成
- ◆ AIやVR※を活用した次世代の教育基盤の整備による高大接続教育の推進

AI・VRを活用した次世代のデジタル農業教育基盤の整備による高大接続教育の推進



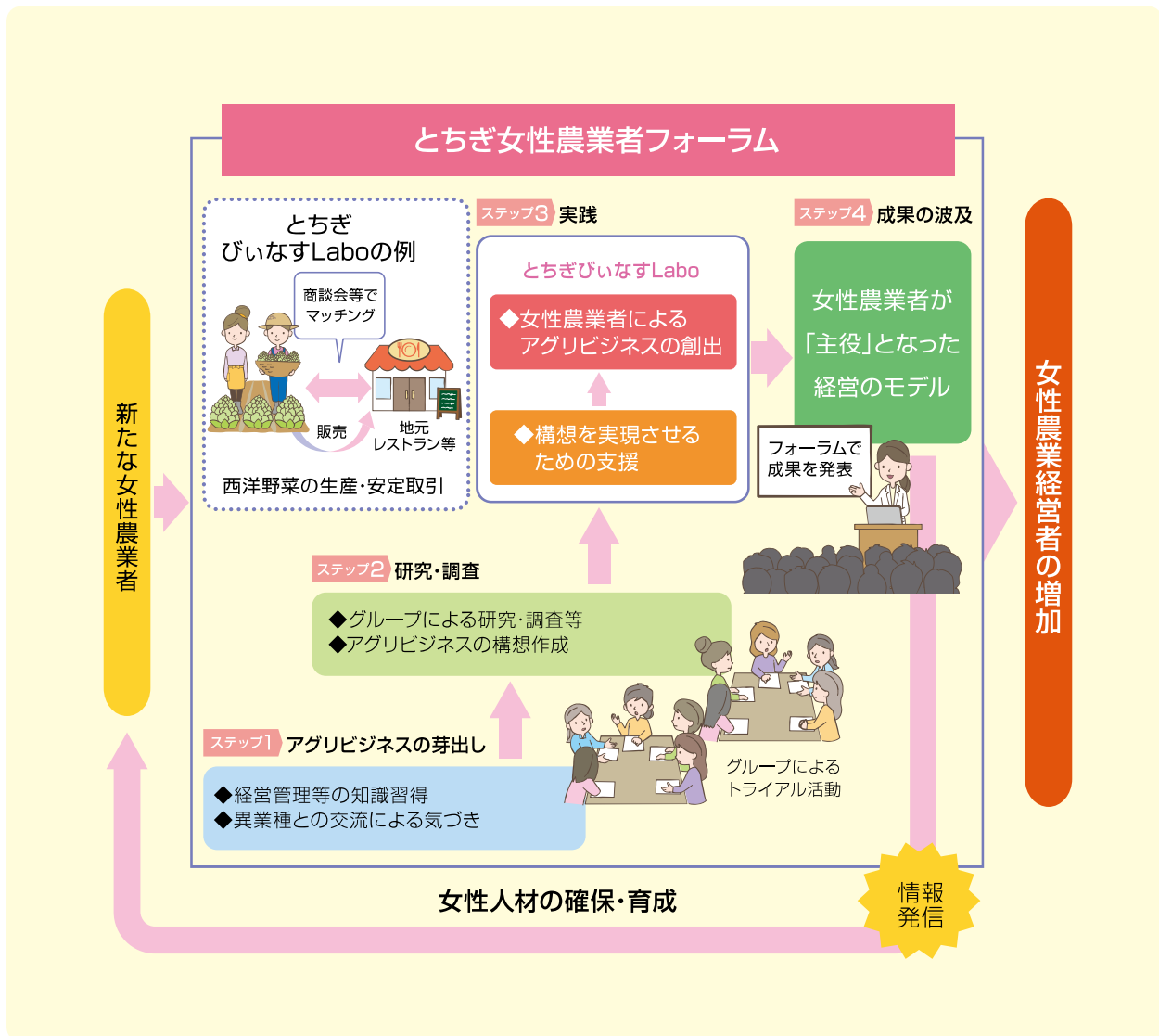
とちぎ農業未来創生プラン

※ VR:Virtual Reality (仮想現実) の略

② 多彩な人材の確保・育成

- ◆ 女性農業者が主役となったアグリビジネスモデル創出の支援と、女性農業者が活躍する姿などの情報発信による女性人材の確保・育成
- ◆ デジタル技術をはじめとする先端技術を駆使した農業をけん引できる人材の育成
- ◆ セカンドキャリア※1やダブルキャリア※2など新たな人材を確保するための仕組みの構築

女性農業者が主役となったアグリビジネスモデルの創出



※ 1 セカンドキャリア：第二の人生における職業
 ※ 2 ダブルキャリア：今の仕事のほかに、もうひとつ別の仕事をもつこと